

I

問1

力のつり合いより

力の大きさ： $(2m + M)g$

力の向き：鉛直上向き

問2

小物体 A と B は点 O から見て速さ $|\vec{v}_{OA}|$ の等速円運動を行っている。

点 O に対する小物体 B の相対速度は $-\vec{v}_{OA}$ だから

$$\vec{v}_B = -\vec{v}_{OA} + \vec{v}_O$$

また、円筒が滑らずに転がっていることから、小物体 B が最下点に来たとき $\vec{v}_B = \vec{0}$ である。

$$\vec{0} = -\vec{v}_{OA} + \vec{v}_O$$

したがって

$$|\vec{v}_{OA}| = |\vec{v}_O|$$

問3

小物体 A の速さは、最下点で最小値 0 をとり、最上点で最大値 $2|\vec{v}_O|$ をとるので
運動エネルギーの最小値：0

運動エネルギーの最大値： $2m|\vec{v}_O|^2$

問4

小物体 A は点 O から見て速さ $|\vec{v}_O|$ の等速円運動を行っているので

$$T = \frac{2\pi r}{|\vec{v}_O|}$$

問5

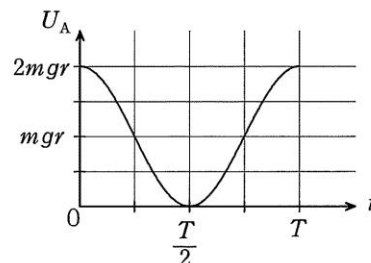
時刻 t における A, B の高さより

$$U_A = mgr \left(1 + \cos \frac{2\pi}{T} t \right)$$

$$U_B = mgr \left(1 - \cos \frac{2\pi}{T} t \right)$$

よって

$$U_A + U_B = \underline{2mgr}$$



II

問1

紙面に垂直に裏から表の向き

問2

エネルギー保存の法則より

$$qV = \frac{1}{2}Mv^2$$

よって

$$v = \sqrt{\frac{2qV}{M}}$$

問3

求める半径を r とする。

円運動の運動方程式より

$$M\frac{v^2}{r} = qvB$$

よって

$$r = \frac{Mv}{qB}$$

問4

問2, 3より

$$r = \frac{Mv}{qB} = \frac{1}{B} \sqrt{\frac{2MV}{q}}$$

半径 r は変わらないので

$$\frac{1}{B} \sqrt{\frac{2MV}{q}} = \frac{1}{B'} \sqrt{\frac{2M'V}{q}}$$

よって

$$\frac{M'}{M} = \left(\frac{B'}{B}\right)^2$$

問5

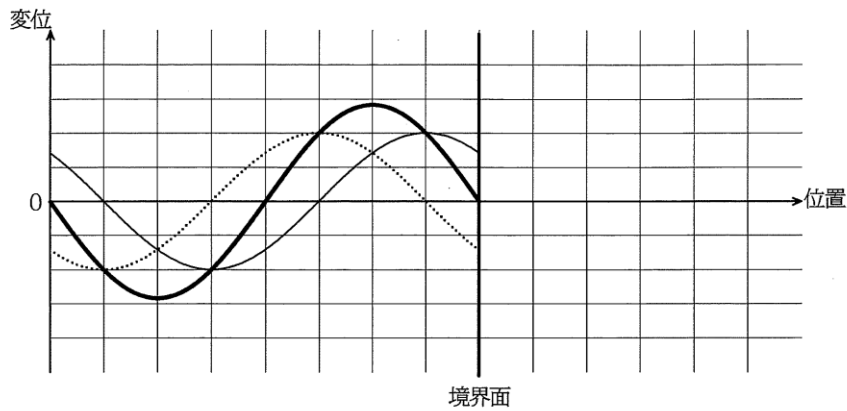
問4の結果より, $M' = \left(\frac{B'}{1.00 \times 10^{-1}}\right)^2 \times 50$ だから

質量数の下限値: 50

質量数の上限値: $\left(\frac{2.00}{1.00}\right)^2 \times 50 = \underline{200}$

質量数の差: $\left(\frac{2.00}{1.00}\right)^2 \times 50 - \left(\frac{1.99}{1.00}\right)^2 \times 50 \doteq 200 - 198 = \underline{2}$

Ⅲ
問 1



問 2

$$\frac{\lambda}{n_1}$$

問 3

$$\underline{2n_1d = \left(k + \frac{1}{2}\right)\lambda}$$

問 4

$$\underline{5.2 \times 10^{-7} \text{ m}}$$

問 5

問 3, 4 より

$$2n_1d = \left(k + \frac{1}{2}\right) \times 5.2 \times 10^{-7}$$

図 3 より, 強め合いの条件式は

$$2n_1d = k \times 6.5 \times 10^{-7}$$

この 2 式から

$$k = \underline{2}$$

問 6

問 5 の結果より

$$d = \frac{\left(k + \frac{1}{2}\right)\lambda}{2n_1} = \frac{\left(2 + \frac{1}{2}\right) \times 5.2 \times 10^{-7}}{2 \times 1.7} \doteq 3.82 \times 10^{-7} \doteq \underline{3.8 \times 10^{-7} \text{ m}}$$